

令和8年産コシヒカリ湛水土中直播（カルパー）栽培こよみ

重点技術対策

1 出芽・苗立の確保

苗立本数:60本/ m^2 程度
(12~24本/ m)

- 圃場の均平化
 - 適正な播種量による苗立確保
播種量: 2.7kg/10a
 - 播種深度の確保: 5~10mm
 - 播種後の田干しの徹底
(5~7日程度)
 - 田干し後の浅水管理
(播種後7日後から入水する)

2 適正な葉色への誘導

- ## ○適正基肥量

LPss直播コシヒカリ

粘質土·27kg/10a

壤質土:2kg/100

3 病害虫防治

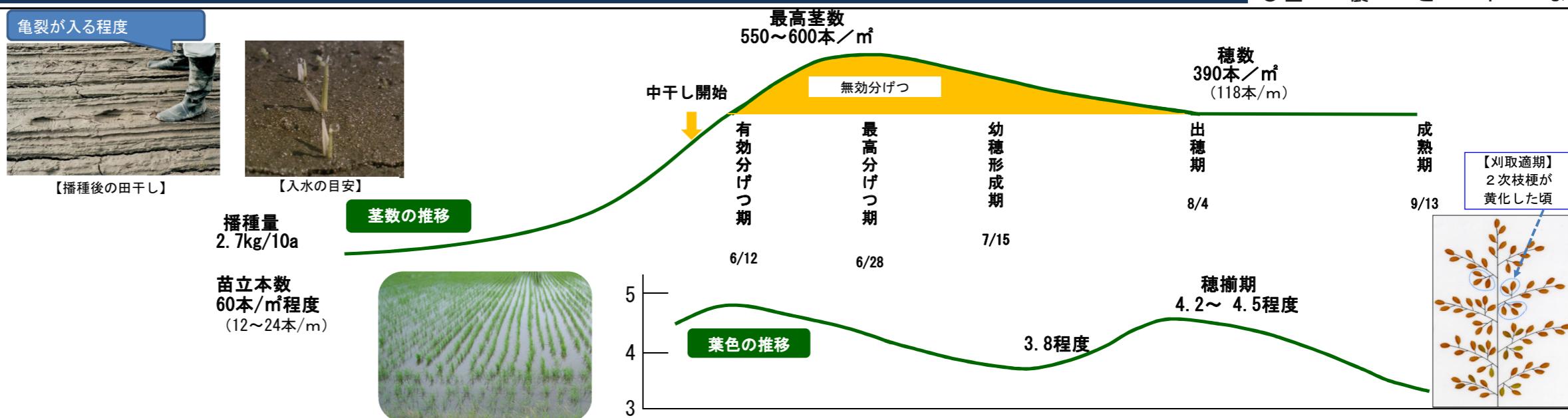
- ## ○穂いもち・カメムシ類等の防除 (8月上旬)

4 稲体の活力維持

- 幼穂形成期から出穂までの
飽水管理
 - 出穂後20日間の湛水管理

収量構成の目標

項目	目標
m ³ 当たり 穂数 (本)	390
一穂粒数 (粒)	70
m ³ 当たり 着粒数 (百粒)	273
登熟歩合 (%)	85
玄米千粒重 (g)	22.0
収量 (kg/10a)	510



- ・土壤分析結果に基づき、土づくりを行う
- ・黄化率85～90%程度まで十分登熱させて刈り取る
- ・刈取りの1週間前まで間断かん水する
- ・湛水管理で登熟向上を図る
- 適期刈取り**
- ・湛水管理で登熟向上を図る
- ・出穂後20日間の湛水管理
- ・カメムシが多発した場合は3回目の防除を行う。
- ・2回目：1回目の7日後 ラブサイドK2フロアブル
- ・1回目：出穂期 ビームエイトスタークルゾル
- 基本防除**
- ・圃場は、出穂3日前までに追肥する
- ・出穂7日前の葉色が4.0以下（砂壩土4.2以下）の生育に応じた追肥
- ・幼穂形成期以降は飽水管理により稻体の活力を維持する
- 飽水管理**
- ・出穂7日前の葉色が4.0以下（砂壩土4.2以下）の生育に応じた追肥
- ・圃場全体を均一に干すため、播種後早めに溝を掘り、落水する
- ・圃場全体を均一に干すため、播種後早めに溝を掘り、落水する
- ・中干し後は間断かん水を行う
- ・6月上旬まで遅れずに中干しを開始する
- ・6月上旬までに溝掘りを行う
- 中干し**
- ・中干し後は間断かん水を行う
- ・6月上旬まで遅れずに中干しを開始する
- ・6月上旬までに溝掘りを行う
- 浅水管理の徹底**
- ・雑草の発生状況に応じて、中期除草剤を散布する
- ・浅水管理で早期に茎数を確保する
- 除草剤散布**
- ・除草効果を高めるため、散布後1週間は落水・かけ流しをしない
- ・雑草の種類や大きさに合わせて除草剤を散布する
- ・除草剤散布 ※防除こよみを参照
- ・鞘葉が出揃い、スジ状になつたら入水する
- ・圃場全体に亀裂が入るまで、田干しする
- ・落水する
- 播種後5～7日間の田干しの徹底**
- ・種子および肥料が落下しているか必ず確認する
- ・生育量を確保するため、播種は4月25日～5月10日に行う
- 播種作業**
- ・加温処理した種子は、1日以内で播種する
- ・種子の加温処理 J.A.にて加温処理済み
- ・少ない水で代かきし、均平に努め、練りすぎに注意する
- ・播種の3～4日前に代かきを行う
- 代かき作業**
- ・荒代後は浅水で湛水し、雑草の発芽を促す
- ・ため、耕起前に高低差をなくす
- ・圃場の均平が出芽揃いや除草管理等に大きく影響する
- 圃場の均平**
- ・前年と同品種または転作あと田とする
- ・直播栽培する圃場は、漏生糞による異品種の混入を防ぐため